

「西田議員はどうして消費税廃止を主張しないのですか？」

令和2年3月11日

●パテントアイランドさんからの質問

「国債は返済不要である。」という西田議員の説明に基づくと、消費税を廃止して税収不足分が生じても、税収不足分の穴埋めができるほどに国債発行額を増額すればデフレ脱却ができて景気回復もできることになります。それでは、西田議員はどうして消費税廃止を主張しないのですか？

●西田昌司の答え

私は消費税を当分の間、ゼロにすべきと思います。

本日（3月9日）、内閣府から2019年10–12月期の年率換算GDPの2次速報値が発表されました。1次速報値は−6.3%という衝撃的な落ち込みでしたが、2次速報値では−7.1%とさらに下方修正されました。これは（台風や暖冬の影響も多少はありますが）まさに消費増税が原因でありますし、この時期はコロナショックは関係ありません。2020年1–3月期のGDPはこの上にコロナショックが襲ってさらなる落ち込みとなるのは確実という状況です。日本のGDPは500兆円台ですが、その一割に相当する50兆円台の経済損失を目の当たりに見るであろうという恐慌さながらの時代に我々は生きています。

恐慌を防ぐのがまさに政治の仕事ですが、50兆円台の経済損失を補填するとすると公共投資の増額だけでは間に合いませんし、消費税の停止が是非とも必要です。私は財政出動派ですし、政府は（20~30年に亘る）長期計画を国民に示して新幹線ネットワーク等のインフラ整備を20~30兆円の規模で進めるべきと考えていますが、50兆円台の損失を公共投資の増額だけで

補填するのは無理があります。50兆円台の公共投資を追加しようと思ってもそれだけの供給能力が今の日本にはありません。

そもそも、今のデフレ下においては消費税という税制自体に問題がありますし、今回のコロナショックは消費税そのものを見直す良い機会とも言えます。コロナショックの終息後、落ち込んだ消費を一気に回復させるタイミングで消費税をゼロにするのです。

消費税をゼロにすると30兆円近くの減税となりますので、50兆円台の経済損失の半分程度は消費税ゼロによって補うことができます。残りの半分は新幹線ネットワーク構築・高速道路拡充・国土強靱化といった長期に亘るインフラ整備の計画を立てて実行しなければなりませんし、来年の当初予算に盛り込むべきです。しかし、本年度の本予算には間に合いませんので、20〜30兆円規模の補正予算を組まなければなりません。そしてこれらの財源はどうするかというと、国債発行で何の問題もありません。

私が消費税を現行の10%から(8%あるいは5%ではなく、一気に)0%に戻すべきと主張しているもう一つの理由は、0%にするのが最も事務的処理が軽減されてスムーズに移行するからです。8%あるいは5%といった中途半端な値に戻す場合、システムの変更が大変ですが、0%であれば消費税そのものをなくしてしまえば良いので一番手間がかかりません。もちろん、今回の経済損失を埋めるには思い切って0%にするという英断が必要です。消費税をゼロにすると間違いなく消費が増えて景気が回復の方向となりますし、合わせてインフラ整備の長期計画を示せば世の中の沈んだ空気が一気に明るくもなるでしょう。

大規模の経済対策をすれば次第にデフレからインフレに移行して念願のデフレ脱却も叶いますが、インフレの行き過ぎを心配する声もあります。2〜3%のマイルドなインフレであれば問題ありませんが、それ以上に過熱してしまうとこれはこれで問題です。しかし、全く心配ありません。そのタイミングで(例えば3%程度の)消費税を復活させればインフレは即座に収まり

ます。(これが消費税の本来のあり方です。)

ところで、日本の消費税は外税方式ですが、ヨーロッパのような内税方式でないことが問題をさらに深刻化させています。ヨーロッパの場合、消費税20%ではありますが、内税方式であるために消費者から見た額に変わりはありません。実際に20%を消費者が負担しているとは限らずに、事業者側が消費税の一部を負担するケースも多いのです。すなわち、消費者に100%転嫁するのではなく、事業者の負担を増やしているわけで、これはある意味、法人税を上げているのと同じです。内税方式の場合、消費者から見れば物価に変わりはありませんし、消費が一気に冷え込むということもありません。しかし日本の場合、消費税の導入時に(様々な議論はありましたが、結局)外税方式に落ち着いてしまったがために、消費税率を上げる度に物価が上がって消費が冷え込むという事態となってしまいました。ゆえに日本はデフレからいつまで経っても脱却できないのです。

今回のようなGDPの衝撃的な落ち込みに対処するためには、公共投資の拡大だけでは間に合いませんし、消費税ゼロが絶対に必要であるということを是非ともご理解ください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>